



第37回 福祉体験 作文コンケール

《優秀作品集》



社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会





はじめに

本会では、 昭和五十八年から「福祉体験作文コンクール」を実施しています。本年度は、小・中・高等学校あわせて三百三十七校、六百六十三名の

児童・生徒の皆様からご応募をいただきました。ご応募いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

今回も、日常生活の中での様々な経験や家族などとの身近な体験、ボランティアを通して気付いた地域の福祉課題等が、素直な気持ちで作文に表さ

れておりました。

関心が広まってきております。本会といたしましても、今後、地域福祉活動への支援や福祉教育活動への充実に向けて、より一層取り組んで参りたい 近年、様々な場面において児童・生徒などの若い世代が多様なボランティア体験や福祉活動に取り組む機会が増え、 福祉やボランティアへの理解

と考えております。

このたび、選考委員会において厳正なる審査をし、二十八編の入選作品が決定されました。ここに、本年度の優秀作品集を作成しましたので、今後

の福祉教育活動の推進にお役立ていただきたいと思います。

最後に、審査にご協力くださいました各委員の方々、作品の応募にご協力くださいました各小中高等学校、 各市町村社会福祉協議会、さらにはボラ

ンティア関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和二年二月

社会福祉法人 愛 知 県 社 会 福 祉 協 議 会

校	「福祉実せん教室で学んだこと」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 世の : 中に : · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	おじいさんの手のぬくもり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	いそうかつどう	
大請糟大山大中 奥岡高小杉角川板津 山井谷石口林川 田澤浦田崎呂 は野千夏雅佑みなみ 千さくら菜仁慶ん世矢 み子夏由貴朗み 芸ら菜仁慶ん世矢	清須市立清洲小学校北名古屋市立白木小学校出名古屋市立日木小学校出多市立東郷東小学校	豊川市立代田小学校一宮市立向山小学校	春日井市立鳥居松小学校春日井市立味美小学校一宮市立西成東小学校	一宫市立与伐卜学校 - 宫市立今伊勢小学校 一宮市立今伊勢小学校	阿久比町立東部小学校
山井谷石口林川 田澤浦田崎呂 は野千夏雅佑みなみ 千さ彩奏り航功 み子夏由貴朗み 葵ら菜仁慶ん世矢	五 五 五 四 四年 年 年 年	四 四 三 年 年 4	三三三三年年年年	三三二二年年年年	一
山 井 谷 石 口 林 川 田 岡 澤 浦 田 崎 呂 日 澤 浦 田 崎 呂 日 澤 浦 田 崎 呂 日 澤 浦 田 崎 呂 千 夏 雅 佑 み 本 く	大請糟大山	大中	奥 岡 高 /	卜 杉 角 川	
み子夏由貴朗み 葵ら菜仁慶ん世矢	山井谷石口	林川	田 田澤	澤浦 田 﨑	子 : : 日 : : : : : :
み子夏由貴朗み 葵ら菜仁慶ん世矢	は野千夏雅	佑 み 士 な	千さ彩奏	を り 航	功
	み子夏由貴	朗み	葵ら菜仁	こ慶ん世	矢 …
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• • • •		
17 10 10 10 17 13 14 11 10 7 0 7 0 7 0 7					: : : : 4 2 1

作文コンクール要項審査経過	偏見がつくる世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	サけ合って生きるために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	^できること、・・・・・・・・・・・・・・・・・「高齢者に優しい街とは」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	勇気
	愛知県立豊丘高等学校愛知県立古知野高等学校	春日井市立鷹来中学校 豊橋市立中部中学校 豊橋市立南部中学校 豊橋市立南部中学校	江南市立古知野中学校一宮市立西成中学校	豊山町立志水小学校豊川市立金屋小学校豊川市立金屋小学校
	三二年年	三三二二二年年年年年	一 一 年 年	六六六六年年年年
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	鈴 荻	馬山岡珠近	加岡	小栗吉鸙
	木 野	場門田島藤戸	藤 田	野林口野
: :	愛 有	愛 あ な り の 東 さ は 瞳 栞	こ 槻	穂 美 侍 凜
	茄 菜	菜さは瞳栞	5 乃	歌空邑音
			: : : : : :	
39 38		33 32 30 29 27 2		23 22 21 20

小学校低学年の部

ひいおじいちゃん



久比町立東部小学校一年

板津呂 功矢

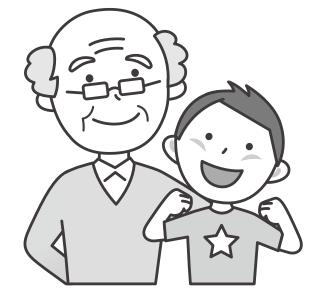
はいったりしているそうです。はくにはひいおじいちゃんが一人います。なつやすみになると、わかます。ひいおじいちゃんのいえは、おじいちゃんのいえのちかくにあります。ひいおじいちゃんのいえは、おじいちゃんのいえのちかくにあけしごとからはじぶんでできますが、もうすぐ九十九さいになるひいほとんどのことはじぶんでできますが、もうすぐ九十九さいになるひいはとんどのことはじぶんでできますが、もうすぐ九十九さいになるひいけしごとからはじまります。じぶんでおこめややさいをつくっています。でむかえにきてもらい、つれていってもらっています。そのところで東おじいちゃんはいつも「あし、こしがいたい。」といっています。一しゅおとれたでもらい、つれていってもらっています。そのところであると、おからます。ひいおじいちゃんのいえにとまりにいったりしているそうです。

ぼんおどりをおどっていたりするところをはじめて見ました。そうにおともだちとはなしていたり、そこではたらいているひとたちととをしているひいおじいちゃんとはちがうかおをしていました。たのしろのなつまつりがありました。そこへみんなでいきました。はたけしごなつやすみになってからすぐに、ひいおじいちゃんがいっているとこ

いおじいちゃんくらいのひとたちがなん人もいます。ぼくのおじいちゃぼくのおじいちゃんとおばあちゃんがすんでいるいえのまわりにはひ

きどきびょういんへつれていってあげています。んおばあちゃんは、一しゅうかんぶんのたべものをかいにいったり、

見つけて、じぶんからできるようになりたいです。になれてつだいをきません。でもぼくが大きくなったら、ひいおじいちゃんやおじいちゃんおばあちゃんのそばで力になりたいです。ぼくができるおてつだいもでれています。いまはとおくはなれてくらしているので、おてつだいもでたちにあえません。ぼくもひいおじいちゃんもまい日みんなにたすけらぼくは、なつやすみやふゆやすみのときくらいしかひいおじいちゃんぼくは、なつやすみやふゆやすみのときくらいしかひいおじいちゃん



七夕まつりボランティアせいそうかつどう

一宮市立今伊勢小学校二年

一宮七夕まつりがおわった次の日の朝六時から、ボーイスカウトのみぼくは、ボーイスカウトのビーバーたいに入っています。

たばこのすいがら、ペットボトル、あきかん、でんげんコードなど、いーじんじゃはごみだらけでした。プラスチックトレイ、くしカツのくし、んなでますみだじんじゃのそうじをしました。

ました。みんなのごみをあつめたら、ごみの山ができました。 ぼくはひとりで十リットルはいるごみぶくろいっぱいのごみをひろい

ろんなしゅるいのごみがおちていました。

とうじがらつってから、外しなでよりなごしじゃこらよっりこったがすがしいきもちになるわ。」とほめてくれました。おさんぽをしているおばさんが、「そうじをしているすがたをみると、すごみひろいをしている時、とてもあつくてあせをたくさんかきました。

とてもうれしくなりました。ました。おまいりをしたら神さまがよろこんでくれているようにかんじ、そうじがおわってから、みんなでますみだじんじゃにおまいりにいき

おまつりにきた人たちが、こんなにもごみのポイすてをするというこなって気もちがすっきりしました。善きれいになるとカラスがごみをたべにこないし、じんじゃもきれいに

なくなるのではないかとおもいました。とにおどろきました。みんながそうじをしたら、ポイすてをする人はい、おまつりにきた人たちが、こんなにもごみのポイすてをするというこ

ボランティアせいそうかつどうをこれからもつづけて、ぼくたちのす

むこのまち、ちきゅうをきれいにして、まもっていきたいです。



いましあわせよ



は、わたしのいえのちかくのグループホームでくらしています。いうのうのびょう気なのよ。」とおかあさんがおしえてくれました。今大きいばぁばは、なんども同じことを聞いてきます。「にんちしょうと

いようになんかいでも話したいです。大きいばあばが、わすれなは、かなしいです。さっきも同じことを聞いたのにと思います。でも、は、かなしいです。さっきも同じことを聞いています。かすれてしまうのくことは、しりたい気もちがあるからだと思います。わすれてしまうのいるけれど、ようちえんのことを聞いています。なんども同じことを聞いたったことは、ようちえんのことを聞いています。なんども同じことを聞いたしが二年生になったことは、すぐわすれてしまうので、二年四く

大きいばぁばは、にこにこわらって、とてもたのしそうでまいました。大きいばぁばは、にこにこわらって、とてもたのしそうでていました。わたしは、りょう手でふたつまわすのも、すぐにおちてしつくっていたとおしえてくれました。今はまめではなく、ビーズが入っします。大きいばぁばは、お手玉がとてもじょうずです。かた手で四つもまわした。

れました。やさいをもりつけるとき、むきがそろっているので、おいしうりがじょうずです。しょくどうで、はたらいていたことをおしえてく年まつには、みんなでおもちをつくりました。大きいばぁばは、りょ

あばがしあわせをわすれないように、またあそびたいです。はは、「今しあわせよ。」と言いました。やさしいかおでした。大きいばので、「みんなでたべるとおいしい。」とうれしそうでした。大きいばあきいばぁばがよくつくるそうです。グループホームもたくさん人がいるしぼうちょうを見せてくれました。グループホームでもりょうりは、大そうです。「あじがしみておいしくなるのよ。」とだいこんにいれるかく



けがから学んだこと



した。

「おかたまっていやなかんじがして早くなおらないかなあと思っていまうぜん下でだれかに体を支えてもらいます。そして左足をあらえないのにビニールぶくろをかぶせて、ぬれないように外に出していました。とつかるととけてほどけてしまいますので、おふろのときは左足の下の方ではくは、三月の間、左足首にギプスをはめていました。ギプスは水に

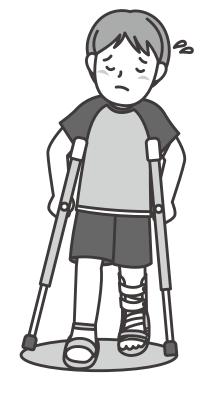
さあ大へんな日々のはじまりです。ぼくの、学校の行き帰りをどうしだめで、ギプスをはめた足で一ヵ月間すごすことになりました。運動がなにもできないからです。はくりこっせつはとにかく動かしてはたさつをしてもらうと、はくりこっせつというわけでギプスをはめられんさつをしてもらうと、はくりこっせつというわけでギプスをはめられいでしたときに左足首をひねってしまったからです。びょういんでしぼくがどうしてこんなけがをしたかというと、サッカースクールでジ

ががよくなれとねんじていました。 さあ大へんな日々のはじまりです。ぼくはひたすら早くけいがよくなれとねんじていました。歩校の中での教室いどうは手すりにつかまのぼりおりがたいへんということで、お父さんやお母さんに車でおくっようとかぞくとはなし合いました。歩道きょうがあるので、かいだんのようとかぞくとはなし合いました。歩道きょうがあるので、かいだんのようとかぞくとはなし合いました。歩道きょうがあるので、かいだんのようとかぞくとはなし合いました。

い。はそういう人たちの気持ちが同じ立場になってはじめてよくわかりましんなにふべんでつらくて大へんなことなのだろうということです。ぼく間ではなく、ずっとこういう生活をするんだということです。それはどー その時思ったことがあります。足がふ自由な人はぼくのように一ヵ月

かけてやさしくせっしてあげたいです。いです。それから、町で体のふ自由な人が困っているのを見たら、声をかります。学校の友達がけがをしてしまったらたくさんたすけてあげたしかったです。足が自由になったぼくは、これからどうしたらよいかわようやくギプスもとれたとき、自由になれたかんじがしてとてもうれ

りしてくれたともだちみんなにありがとう。ぼくがけがをしている間、にもつを持ったり、いっしょにいどうした



あんなこせい



うには見えませんでした。ぼくはチームでたたかうし合を見て、ワクワ うゆうかんなすがたを見てあこがれました。とてもしょうがいがあるよ もあります。タックルなどぶつかり合いもあるので、てんとうや車いす ににたものを使います。ウィルチェアーラグビーは男女こん合のチーム きるラグビーはあるのだろうか、と、ぎ問に思いインターネットで調べ どぶつかり合うはげしいスポーツなので、しょうがいのある人たちがで プがあるのでよくテレビでラグビーを見ました。ラグビーはタックルな ちのオリンピックがある事を知りました。今年はラグビーワールドカッ からパラリンピックにきょう味を持っています。きっかけはきょ年の夏 クしました。リオパラリンピックでは日本は、はじめて銅メダルをとり 池ざきせん手を中心に、車いすでこわがらずにたおれてもまた立ちむか ラグビー日本代表のし合を見ました。キャプテンの池せん手、エースの 言われています。ぼくは前回のリオパラリンピックでのウィルチェアー のパンクもあります。パラリンピックの中でも一番はげしいスポーツと ルににています。また、ボールはラグビーボールではなくバレーボール ルがあります。十秒間ボールを持ってはいけないところはバスケットボー ことをぼくははじめて知りました。ウィルチェアーラグビーどくじのルー てみました。車いすでやるラグビーを、ウィルチェアーラグビーと言う 休みのふくし作文です。ふくしについて調べた時にしょうがい者の人た 来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。 ぼくは 昨年

> くはいろんな人たちと会って話がしたいです。 合い、たすけ合えるチームメイトになっていきたいです。そのためにぼ くらべたりせず、みんながかがやけるように、こせいを生かし、 のこせいはぼくのたから物で、みんなそれぞれたから物を持っています。 て当たり前で、がんばっている人はみんなかっこいいと思います。 由なだけで、ぼくはそれはこせいだと思います。顔や体はみんなちがっ せん手から、ぼくはゆう気をもらいました。せん手たちは手や足がふ自 なんでもチャレンジしていこうと思います。ウィルチェアーラグビーの れん習がひつようだと分かりました。ぼくもできないとすぐあきらめず、 が、うまくなげる事もキャッチもできませんでした。本当にたくさんの ぼくも公園でかた足かた手を使わずにキャッチボールをしてみました。 がふ自由なせん手もあきらめずにれん習して世界一を目ざしています。 ぼくは手足が動くのに、できないとすぐ思ってしまいます。けれど手足 いました。ぼくは夏休みに、にが手なさか上がりのれん習をしています。 と思います。でもそのためにはどのくらいのれん習をするのだろうと思 ました。ぼくは来年の東京パラリンピックで金メダルを目ざしてほし



わたしができるしゅう集ボランティア

一宮市立西成東小学校三年

クを集めています。 わたしは、お母さんに教えてもらって一年半くらい前から、ベルマー

人のやくに立つことなので、これからもつづけていきたいです。というねがいがあるそうです。教ざいや教育かんきょうのじゅう実、べというねがいがあるそうです。教ざいや教育かんきょうのじゅう実、べというねがいがあるそうです。教ざいや教育かんきょうのじゅう実、べをかられがいがあるそうです。教ざいや教育かんきょうのじゅう実、べんのしえん、すべての子どもたちに同じように学ぶきかいをあたえたいでルマークがどんなことに使われているのか調べてみました。ひさいべルマークがどんなことに使われているのか調べてみました。ひさい

トルのふたは、家でもかんたんにできるしゅう集ボランティアです。家わたしはペットボトルのふたも集めています。ベルマークやペットボ

族やお友だちときょう力してベルマークをいっぱい集めたいです。



目に見えないしょうがい



とりました。うしゅるいのがんで、手じゅつをして、がんができているこう門を全部うしゅるいのがんで、手じゅつをして、がんができているこう門を全部(わたしのおじいちゃんは、がんになりました。「こう門かんがん」とい

で作ってもらいました。なくなってしまうので、「人工こう門」という、うんちの出口を手じゅつなくなってしまうので、「人工こう門」という、うんちを自分では出来こう門がなくなってしまったおじいちゃんは、うんちを自分では出来

外へ出かけることが楽しくなくなってしまいました。うんちは、いつ、どれだけ出てくるかわからないので、おじいちゃんは、くろをテープではりつけて、そのふくろの中に、うんちが出てきます。人工こう門は、おなかの横に作ってもらいました。人工こう門に、ふ

夏休みに、おじいちゃんが水族館へつれて行ってくれました。り、買い物へ行ったり、わくわくしてとても楽しいです。わたしは、おじいちゃんと出かけることが大すきです。水族館へ行っ

と、楽しそうでした。

「さくらとなら、がんばって出かけてみようかな。」

もかなしい気持ちになりました。てはくれませんでした。わたしは、つらそうなおじいちゃんを見てとておじいちゃんは見た目はとても元気に見えるので、だれもせきをゆずっのキズがいたいので、長い時間立っていることが出来ません。けれども、水族館へは地下鉄にのって行きました。おじいちゃんはまだ手じゅつ

きれいでした。りました。キラキラとしたさかなや、かわいい目をしたシャチがとてもりました。キラキラとしたさかなや、かわいい目をしたシャチがとてもえきについて、少し休けいをしてから、ゆっくりと水族館を見てまわ

族館の話をしながらかえりました。っくりとかえることが出来ました。おじいちゃんとわたしは、楽しく水かえりみちは、タクシーでかえりました。ひんやりとすずしくて、ゆ

のかな。」と思い、お母さんに聞いてみました。かったように、「目には見えないけれど、こまっている人がたくさんいる水族館へ行く地下鉄の中で、おじいちゃんがせきをゆずってもらえな

出来るようになれば、わたしはとてもうれしいです。
のに、つけている人や、知っている人が、楽しく出かけたり、生活することがのに、つけている人や、知っている人がとても少ないことを知りました。のに、つけている人や、知っている人がとても少ないことを知りました。くれました。その中でも、「ヘルプマーク」は、とてもすばらしいものなお母さんは、たくさんの「目に見えないしょうがい」について教えて



調理をする人が見えました。しせつの人が「同じ部屋の中で調理をして

おり紙をおったり、リハビリをしたりしている同じホールの所で、

『おいしいにおいだな。おなかがすいたな。』という使えるきのうがたく

と、とてもいいにおいがしました。たくさんのおじいさんとおばあさん

おじいさんの手のぬくもり



しせつの人にあんないしてもらいながら、だんだんと中へ入っていくの方には入ったことがなかったのでとても楽しみでした。になっていて、ぼくは毎年よぼうせっしゅでり用していますが、ホームムに行くことになりました。このろう人ホームはびょういんといっしょ三年生になって社会科のたんけんでぼくのはんは、近くのろう人ホー

だいね。」と言ってくれました。
とにおいもかんじることができなくなっていってしまうから、くふうされているなと思いました。その後、ホームの中にある庭につれていってとおいしいにおいもかんじることができなくなっていってしまうから、くふうさとにおいもかんじることができなくなっていってしまうから、くふうさとにおいもかんじることができなくなっていってしまうから、くふうさとにおいもかんじることができなくなっていってしまうから、くふうさとにおいしいにおいをかぐとおなかがすくけど、お年よりは使わないでいるなんはたらくようにしているんだよ。」とせつ明してくれました。ぼくもさんはたらくようにしているんだよ。」とせつ明してくれました。ぼくもさんはたらくようにしているんだよ。」とせつ明してくれました。ぼくもさんはたらくようにしているんだよ。」とせつ明してくれました。ぼくも

あげたいと思います。ができたらこんどは、ぼくたちが「元気でいてね。」とパワーをおくってかせてくれました。楽しくてぼくたちもパワーがわいてきました。たねにぎってくれました。そして歌っていた「ふるさと」をぼくたちにも歌ーリハビリをしているおじいさんがぼくたちから力をもらいたいと手を



小学校高学年の部

|思いやり||でくらしやすい世の中に



「福祉って何だろうか」

った。でも、それでは福祉の役目が分からない。なのだろうか。いやいや、席をゆずるのは当たり前のことだ。母に教わ私は、こう思うしゅん間が何度もある。電車やバスで席をゆずること

受けると思う。を受けていた。その通りだ。私も自分が不自由になったら、ショックを由になるなんて。おばあちゃんは、病気になったことに対してショックられなかった。あんなに元気だったおばあちゃんが、右手、右足が不自昨年、私の大好きなおばあちゃんが、脳こうそくになった。私は信じ

てくるか分からない。もしかしたら、明日かも知れない。 このような、全く予想をしていないことが、いつ、私におそいかかっ

な工夫がある。間利用した。そして、もしも体の回復が望めない時のために、いろいろでも、そういう時のために「リハビリ」がある。おばあちゃんも半年

る人のために、「身しょう者用トイレ」もある。かったら、「手話」や「音声ガイド」がある。他にも、車いすに乗ってい例えば、字が見えなかったら「点字」がある。そして、耳が聞こえな

このように、体が不自由になっても、だれかが考えてくれた、多くの

しせつやプログラム、器具がある。

思いやりから生まれたのだろう。 このようなものは、だれかを助ける支えになる。これらは、だれかの

「思いやり」

これこそが福祉なのではないか、そう思った。

祉なのではないかとあらためて思い直した。 だから、福こう考えると、電車やバスで席をゆずるのも「思いやり」だから、福

- | 「困っている人を助けること、人を思いやることが当たり前にできるこ

のある行動ができる、そんな世の中になればいいと思う。それには、みんなが「福祉」を理かいし、だれかのために「思いやり」

らせるのではないだろうか。 そうすれば、しょう害者の人たちだけでなく、私たちも、安心してく

せる町を福祉で作っていきたいと思う。(そして、私は小さな「思いやり」をつづけ、みんながかいてきにくら)



ぼくのお兄ちゃん



らだ。 ていない。それは「自閉しょう」という「しょうがい」をもっているかていない。それは「自閉しょう」という「しょうがい」をもっているか(ぼくには、一つ上の兄がいる。でも兄は、ぼくと同じ小学校には通っ

変だけどがんばれ。)と心の中で思っている。 にくが、兄がしょうがいを持っている。 だから、いつも(大きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったので、意味がよく分きだ。父と母に教えてもらったが、まだ小さかったのは、保育園年長のとまだが、兄がしょうがいを持っている。

たりする。ぼくは兄がどうしてとんだりたたいたりするのかと思ったこの兄のえ顔はとてもすてきで、ぼくは兄がわらっている顔が大好きだ。ことが兄にはできることもある。兄はいろいろな人にえ顔を見せる。そことが兄にはできることもある。兄はいろいろな人にえ顔を見せる。そ前もよぶし、ぼくと一しょに遊んでくれる。そして、ぼくにはできないかに兄は一人言を言うこともあるけど、家ではふつうに話す。ぼくの名でもぼくは、兄のことを「しょうがい児」だとは思っていない。たし

に思うこともあった。ぼくだったらおこれることでもいやな顔はしない。そんな様子をふしぎっていた。両親は兄がどんなことをしていてもやさしくわらっている。ともある。でもいつもそのすがたを見ているためか、何とも思わなくな

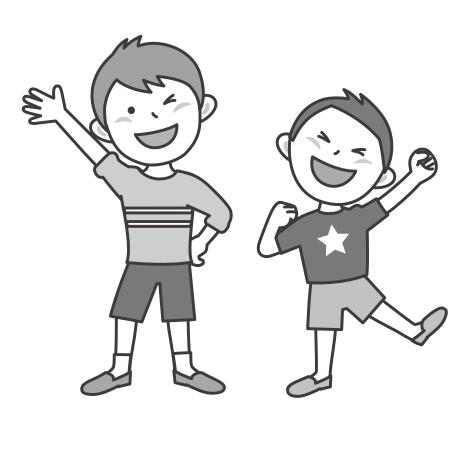
いると、その様子が当たり前のように見えてきた。 兄は今、「特別支えん学校」に通っている。兄の学校には何度か行った りしているい。みんなやさしくわらっている。そこにいる子たちもると、ぼくには最初はすごく大変そうに見えた。でも、先生たちはいやると、ぼくには最初はすごく大変そうに見えた。でも、先生たちはいやことがある。兄のようにぴょんぴょんとんだり、すごいいきおいで走っことがある。兄のようにぴょんぴょんとんだり、すごいいきおいで走ったは今、「特別支えん学校」に通っている。兄の学校には何度か行った

しい。せっしてほしい。

「はくは兄とよく外へ出かける。兄は歩いていると、楽しいのか、またでは、おういながら自分の頭もたたく。すると、周りの人が兄を見る。その目は、両親や兄の学校の先生のような、やさしい目ではなく、こわくの目は、両親や兄の学校の先生のような、やさしい目ではなく、こわくの目は、両親や兄の学校の先生のような、やさしい目ではなく、これくのよいながら自分の頭もたたく。すると、周りの人が兄を見る。その目は、でいるが、近にというがいがあってもなくても、同じように見てほしい。といると、楽しいのか、またでは、せっしてほしい。

いを持っていても、兄はぼくにとって「最高のお兄ちゃん」だとこれか顔を見ていると大変なことを一しょに乗りこえられる。どんなしょうがぼくは、いやな顔をする人にはならない。いつもわらっている。兄のえ兄とせっしていて、いやになることは、すごく大変なことなのかもしれない。でもだくは、これから先、ずっと兄と一しょに生きていく。「通じょう」の人ぼくは、これから先、ずっと兄と一しょに生きていく。「通じょう」の人でよんぴょんとんでいようが、一人言を言っていようが、わらって頭びょんぴょんとんでいようが、一人言を言っていようが、わらって頭





「ぼくのおばあちゃん」

知多市 立南粕谷小学校四 山 口 雅貴

「かわいそうだな。前みたいに、ぼくと遊べないなんて。」

この時に、おばあちゃんは、 からおこしたりしてくれました。また、歩く時も、ささえてくれました。 した。やさしく話しかけたり体のことを心配したり、体をささえベッド のを見て、「おばあちゃん、どうなっちゃうのかな。」と、心配でした。 ていたおばあちゃんが、歩けなくなり、ずっと病院のベッドでねている おばあちゃんは、調子が悪くなり、病気で長い間、入院しました。歩い 病院でねているおばあちゃんのところへ、かんごしの人が、二人来ま 病院のベッドでねているおばあちゃんを見た時に思いました。ぼくの

「もう、これから一人では歩けなくなっちゃうのかな。_

けなくなり、食事もあまり食べられなくなったことです。 してくれます。話す時は、前のおばあちゃんのままです。ちがうのは歩 が、おばあちゃんと話すと、おばあちゃんは、とてもうれしそうに話を と、つぶやいていて、それを聞いたぼくは、かなしくなりました。ぼく

まだ大人みたいに力がありません。ぼくに出来ることを考えました。二 つ、考えつきました。 年をとると、だれかに手伝ってもらうことが必要になります。ぼくは、

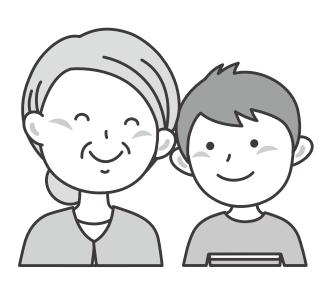
ね。」と言って、食べてくれました。二つ目は、会いにいくことです。会 速、アイスクリームをプレゼントしました。おばあちゃんが、「おいしい つ目は、おばあちゃんが、よろこぶプレゼントをすることです。早

「んくと

「よくきてくれたね。うれしいよ。」

も出来ました。役に立てて、うれしかったです。と、笑顔になってくれました。ベッドのまわりの物を取ってあげること

ゃんのためにしてあげたいと思います。 で、おいしいにんじんごはんを作ってくれていたおばあちゃんを、次はまた、おばあちゃんのにんじんごはんを食べたいです。ぼくたちのためまた、おばあちゃんのにんじんごはんを食べたいです。ぼくたちのためあつまるときに、おばあちゃんがにんじんごはんが大好きだからです。確のように、おばあちゃんが、料理もできなくなってしまったことが



えがおのために



名古屋市立白木小学校四年

大石

石夏由

「お・お・いし・なゆさんですか。」

ました。

さいにうってしまうなんて点字をうつ人は、本当にすごいと思いた。なぜなら点字は、はりを使いそのはりで紙をへこませて読みます。なぜなら点字は、はりを使いそのはりで紙をへこませて読みます。文字一文字うつのが大変です。一文字うつたびにため息が出てしまいま英語が外国人につたわった時のような気持ちになりました。点字は、一思いでうった点字を目の不自由な方に読んでもらえたからです。初めて思いでうった点字を目の不自由な方に読んでもらえたからです。初めてました。

んだり、乗ったりしないように気を付けようと思いました。と目の不自由な方にめいわくがかかります。だから、点字ブロックで遊切さが分かりました。わたしたちが、点字ブロックの上に乗ってしまうがら進んで行くために設置されています。小さい時、わたしは点字ブロックの上で遊んだことがあります。けれどもこの日、点字ブロックの大がら進んで行くために設置されています。小さい時、わたしは点字ブローは、目が不自由な方を助ける点字ブロックを知っていますか。点字ブロッ

変さが少し分かったような気がしました。なんて一つもありません。でも、そんな毎日をすごしている方たちの大まんことができないのはもちろん、色々な所にぶつかるなど、いいこと家に帰ってから少しだけ目を閉じて動いてみることにしました。本を

出しました。 ばゆずられた人も、えがおになると思います。他には、こまっている人 せん。わたしも二年生の時足を骨折して不自由な思いをしました。その いますが、 がいたら助けてあげること。こまっている人がいても知らん顔する人も な所がいたくなってしまうでしょう。でも、元気なわたしが席をゆずれ 電車やバスの席をゆずること。ずっと立っているとつかれてしまうし色々 心』をもつことだと思います。たとえば、お年よりや体の不自由な人に わたしが出来ることは何だろうと考えてみました。それは、『思いやりの …そんな毎日は本当につらいと思います。 体の不自由な人たちのために 目を開けているのに何も見えない、相手の顔も表じょうも分からない 家族や友達にたくさん助けてもらいとてもうれしかったことを思い 声をかけたら、少しでも手助けになることがあるかもしれま

苦手なことがあるのと同じで、特別なことではないのだと知りました。 がいたら少しでも手助けをして、えがおになってもらいたいと思います。 これからは今まで以上に、『思いやりの心』を大切にし、こまっている人 福祉実践教室を通して、体に不自由な所があっても、それはわたしに



ボッチャを体験して感じた

橋 市 立天伯 小学校五年 糟谷

ンピックは一度も見た事がないと思いました。 た。私は、今まで、テレビでオリンピックは見た事があるけど、パラリ ん思いうかびますが、パラリンピックの競技は、思いうかびませんでし 二〇二〇年八月、東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。 オリンピックの競技といえば、陸上・水泳・バドミントンなどたくさ

ドスンと落ちました。 り重く、ゆかに落としてみると、バスケットボールの様に、はずまず、 どれだけ近づけられるかを競うスポーツです。ボールは、持つとずっし の一つの〈ボッチャ〉というスポーツを体験することが出来ました。 ところが、今年の夏休みに参加したイベントで、パラリンピック競技 ボッチャは、ジャックという白い的玉に、自分のチームのボールを

たり、 たりして、投げる練習や、目標物に当てる練習をしました。 教えてもらいました。レジャーシートに乗せてみたり、つつに当ててみ ゲームを始める前に、ボールに慣れるために、両手でコロコロ転がし ほっぺに当てて、感触を確かめたりしました。その後、 投げ方を

出てしまい思っていたよりもむずかしかったです。 いたけど、実さいにやってみたら思った所に行かずレジャーシートから はずまないボールを投げて落とすだけだからかん単に出来ると思って

に分かれて試合を行いました。 ボールにも慣れ、少しずつ投げ方にも慣れてきたころ、一チーム五人

していたので、どのグループにも、さまざまな人がいました。 今回のイベントには、大人も子どもも、障害がある人もない人も参加

私達は車いすに乗った男の子と一緒のグループでした。

そうなので、だれでも出来るスポーツなんだなと思いました。 ちが伝えれる場合は、かい助してくれる人に手伝ってもらう事も出来る も、せん用の道具を使って、転がす事が出来たり、投げたいという気持 私のチームの男の子は、ランプという道具を使い、かい助してもらい ボッチャの良い所は、手で投げれる人は手で、それがむずかしい人で

ながらボールを転がしていました。

げれた時には、手をたたいて喜んだり、勝てそうな時は、 出来ませんでしたが、何度か試合をするうちに私は、その子がうまく投 もいて、勝った時、運動会の様に大きな声で喜んだり、飛びはねたりは 投げるのですが、その男の子は、私の投げたボールより近くに転がして い気持ちや、うまく投げられずくやしい気持ちをうまく表現出来ない人 いて上手でした。参加している人の中には、私達の様に、勝ててうれし 始めに投げるジャックボールの、より近くに投げた色のチームが次に

「がんばろう」

と、自然と声をかけたりしていました。

大切な事を学んだ気がします。 私は、ボッチャという競技を知って、 体験しただけではなく、もっと

ボッチャを教えてくれた先生は、

「この競技の良い所は、だれでも出来る所です」

所が良いなと思いました。 た。そしてチームの仲間と協力出来て、みんなで気持ちを一つに出来る と言っていました。実さいにやってみて私も本当にそうだなと思いまし

パラリンピックで、ボッチャの競技を見てみたいと思いました。そし 他にはどんな競技があるのかなときょう味がわきました。

一〇二〇年八月は、 オリンピックだけではなく、パラリンピックも見

て、応えんしようと思います。

そして、私もまたみんなと、ボッチャを楽しみたいなと思いました。



勉強になった認知症カフェ



城市立東郷東小学校五年

請井野乃子

し合ったりする場所です。 方やその家族が地域の人や専門家と情報交かんしたり、おたがいを理解善認知症カフェにお手伝いに行きました。認知症カフェとは、認知症の

の人の助けがあればよくなる場合とがあることも分かりました。送れなくなります。認知症の中でも、治すことができない場合と、周りなったり、できていたことができなくなったり、今までのような生活が思知症とは、さまざまな原因で脳の細ぼうが死んでしまったり、働きが認知症とは認知症とはなんだろうと思い、認知症について調べました。

と思いました。と思いました。といいます。お母さんから聞いた話だといっしょにくらしていけるといいなあいの気持ちも楽になったと言っていました。お母さんからそんな話をなって、家にいたころよりしょうじょうがよくなった気がするそうです。かえをしていたそうです。言っていることがおたがいに分からなくてぶが悪いのか分からないけれど、病院に行きたいと言うので、毎日送りむいます。お母さんから聞いた話だといっしょにくらしていたころ、どこしょうじょうが少しあり、四年くらい前からグループホームで生活してしょうじょうが少しあり、四年くらい前からグループホームで生活して

高学年になってからは、おそくまで課外活動があったり、土日も習いのです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあとな問いてもらいたいです。ひいおばあちゃんの話も聞きたいです。そしたです。そうしてひいおばあちゃんといっしょにいられるようにしてあげたいです。そうしてひいおばあちゃんといっしょにいられるようにしてあげたいです。そうしてひいおばあちゃんといっしょにいられるようにしてあげたのだとあらためて思いました。今度、ひいおばあちゃんに会いた行こうと思いました。最近がんばっている習い事のバレーボールの話を聞いてもらいたいです。ひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといです。そうしてひいおばあちゃんの気分が楽しくなったらいいなあといいです。そうしているはいるがあったり、土日も習いまがあったりになっている。

ごさせてあげることです。そして、そこに集まる人が認知症という病気です。そこでわたしがピアノをえんそうして、少しでも楽しい時間を過た。それは、ひいおばあちゃんを連れて家族で認知症カフェに行くことできてよかったです。これからわたしができそうなことを考えてみまし認知症カフェのお手伝い体験をして、認知症について少し知ることが

いなあと思いました。を理解したり、なやみごとが少なくなるようになっていったりしたらい



「福祉実せん教室で学んだこと

清須市立清洲小学校五年

み

そこで私は夏休みに手話について、調べてみました。耳が不自由な人があることや、私たちに協力できることがあることを知りました。いました。でも、「ふ」「く」「し」の言葉を知り、私たちの身近にも福祉私は、福祉はお年よりの人が利用するしせつのようなものだと思って

することはすごく大切なことで、すごいことだと感じました。することはすごく大切なことで、自分ができることを考えたりして行動な人でも少し工夫をすれば楽しい会話ができるんだなと思いました。い校での工夫など初めて知ることばかりでびっくりしました。耳が不自由に、落とし物を伝えたいときや、会話をするときの方法。また、ろう学に、落とで私は夏休みに手話について、調べてみました。耳が不自由な人

ました。手話は、とてもむずかしいイメージだったけど実さいにやってうしたら分かりやすく伝わるか、しっかり考えることが大切だなと思い話をしたいときは、とてもむずかしいと思うけど、相手に伝えるにはど口を開けて伝わりやすいようにしたいと思いました。ジェスチャーで会体験をして、口の形だけで聞きとってもらうときは、ゆっくり大きく

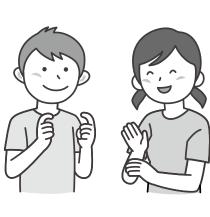
で表すジェスチャーとにていました。

してもらえません。手話は、あいさつや短い会話などを、で伝えるために、だいたんに分かりやすく動かさないと、

かんたんに手 相手には理解 ずかしくて、なかなか何を言っているか当てられません。ジェスチャーしました。口の形や動きだけで何としゃべってるか当てるのはとてもむ

二学期の福祉実せん教室では、実さいに耳が不自由な人の感覚を体験

さん福祉のことを知ってしょうがいのある人を困らせたり、迷わくをか けてあげられる思いやりのある人になりたいと思いました。もっとたく を伝えられない人もいるけど、そういうときに一番はじめに見つけて助 手もうれしい気持ちになれることが分かりました。耳が不自由な人は見 す。福祉実せん教室で授業を受ける前までは、福祉なんて私には関係な 楽しめることはたくさんあるんだなと思いました。私たちが思いやりの みると分かりやすく表現されていておどろきました。もし耳が不自由な けたりしないようにしたいです。 ためでは分かりにくく、なかには話せない人もいるから困っていること いと思っていたけど、授業を受けて私にもできることがたくさんあるこ んあると思うけど、一つでも多くの不安がなくせるように工夫したいで 話できるのではないかなと思いました。私たちとはちがう不安がたくさ 気持ちをもって接することで、耳が不自由な人もよい気持ちで楽しく会 しょうがいのある人でも外国に行けることを知り、耳が不自由な人でも 人が困っていたら、体や口を大きく使って教えたいと思います。また、 思いやりの気持ちや、相手のことを考えられる気持ちがあれば相



点字の体験をして



を感じることができた。私は、五年生の時に体験した点字の授業で、目の見えない人の気持ち「点字によって、こんなに目の見えない人は助かっているんだな。」

ていた。今思えば、何となく上から目線な気がする。なかった。ただ、何となく、かわいそうとか助けてあげなきゃとか思っそれまで、私は、福祉のこととか、障がいのことに、あまり実感でき

本食り食、 - ノビス、電子など、でしょうのであった。なり引い人にとって大事な情報源になっているのか分かった気がした。っていることが多くなった。そして、点字が、どれだけ今、目の見えなケットにあるトイレの中の点字とか駅にある点字とかを、つい、目で追でも、点字の体験をした後とても興味を持つことができ、スーパーマー

いてもおかしくないということだと思う。特っていることになる。これは、知り合いの中に手帳を持っている人が、障害者手帳を持っている人は、日本人の中で七パーセの調査を見ると、障害者手帳を持っている人は、日本人の中で七パーセの調査を見ると、障害者手帳を持っている人はいない。でも、内閣府体験の後、テレビで、障害者手帳というものがあると知った。私の周

について体験するまでは身近ではなかった。なののに私は、私の周りには障がい者の人がいないと思う。だから点字

だ。こういうことって大事なのではないかと思う。(そんな私にとって、体験をしたことで、点字が身近な存在になったの)

ら、がある人のお手伝いをしているそうだ。それってどういうことか聞いたがある人のお手伝いをしているそうだ。それってどういうことか聞いた、私の母は、障害者手帳は持っていないけれど、生きていくのに困り感

でしょう。」のいいにくい場合、障害者手帳を持つこと自体ができないいることが、分かりにくい場合、障害者手帳を持つこと自体ができないも周りもわかりやすいけれど、見た目とか自分自身でも、自分が困ってなければ手帳をもらって、福祉のサービスを受けるということは、自分「目が悪ければ眼鏡をかけるというのは分かりやすいし、全く目が見え

ら、福祉を必要としている人はもっと増えるかもしれない。と教えてもらった。手帳を持っていなくても困っている人がいるとした

てと声を上げられない人を助けられる方法ってないのかな。生きやすくならないみたいだ。それって、何とかならないのかな。助け福祉というものは、その人が困っていると思い、誰かに相談しないと、

と思う。と思う。と思う。という本を読んだ時、こんな人がいるんだとびっくりし『五体不満足』という本を読んだ時、こんな人がいるんだと、小学に対れど、実は、五体満足で生まれてくる方がきせき的なんだと、小学に

とに困っているのか、私に何かできることはないのか、考えていきたい。になったら、ボランティア活動を積極的に行って、どんな人がどんなこ私は、将来医学の道に進みたいと思っている。そのためにも、中学生



ボランティアのたまご

豊川市立金屋小学校六年

ことを言うのは、はずかしいと思ってしまうからです。と言いました。困るな、いやだなと思いました。他の人に、困っている体育館みたいな広い場所だと何を言っているのか聞きとれないことがあります。みんなは聞こえて、どの音が聞こえないのか、出く分かります。みんなは聞こえて、どの音が聞こえないのか、と気かります。お母さんは、「侍邑がどのくらい聞こえて、どの音が聞こえないのか、よく分かりと言いました。困るな、いやだなと思うことがあります。お母さんは、「侍邑がどのくらい聞こえて、どの音が聞こえないのか、よく分かりと言いました。を言うのは、はずかしいと思ってしまうからです。ぼした。なんで聞こえにくくなってきたのかは、分からないそうです。ぼした。なんで聞こえにくくなってきたのかは、分からないそうです。ぼした。なんで聞こえにくくなっても思いました。他の人に、困っていると言いました。

でも暮らしやすい世界になると思います。

今年は、小学校最後の夏休みなので、何か新しいことにチャレンジしか。そうすれば、ぼくみたいに困っていることをはずかしくて言いました。実体験をして、初めてその人の気持ちになれたけど、体験しなくても、こうじゃないかな、ああするといいかもしれないなと、本人なくても、こうじゃないかな、ああするといいかもしれないなと、本人なくても、こうじゃないかな、ああするといいかもしれないなと、体験した。初めてのボラたま隊で、盲目の人の体験をしました。見えないとようと思い、ボラたま隊という、ボランティアのたまごの隊員になりまった。初めてのボラたま隊という、ボランティアのたまごの隊員になりままない人に気づいてあげられ、困っている人がいなくなって、どんな人をました。そうすれば、ぼくみたいに困っているとか体で感じることがでいました。利力になりままであると思います。

にプレゼントできるようになりたいです。 にプレゼントできるようになりたいです。どんな人でも、楽しく生ムやパソコンをしたり、本を読んだり、楽しく生活したいです。それは、はくは難聴があるけど、友達と遊んだり、家族と旅行へ行ったり、ゲーぼくは難聴があるけど、友達と遊んだり、家族と旅行へ行ったり、ゲー



「障害者のためにできること」

あま市立甚目寺南小学校六年 ・

をつくることにつながるのだと思います。 障害者に対して正しい知識を身に付ける。それが過ごしやすい世の中

私は学校の授業で「視覚障害者ガイドヘルプ」という体験をしました。私は学校の授業で「視覚障害者ガイドヘルプ」という体験をしました。をの居場所を教えてくれました。その声を聞いてとても安心することがたさは「右に曲がるよ。」「もうちょっとで着くよ。」など優しく、詳しくとでした。今自分がどこにいるのか、どこに何があるのか分からず、なとでした。今自分がどこにいるのか、どこに何があるのか分からず、なとでした。今自分がどこにいるのか、どこに何があるのか分からず、なとでした。今自分がどこにいるのか、どこに何があるのか分からず、なただか真っ暗な世界に放り出されたような感覚に陥りました。学校のどちの居場所を教えてくれました。その声を聞いてとても安心することができました。このことから、視覚障害者にとってガイドヘルプの声はとても信頼でき、安心できるものなのだと気が付きました。

人は軽く体が触れただけでバランスを取るのが非常に困難なため、転落でしまった。」という声が多く挙げられました。このような「思い違い」した。」「ふだん頼りにしている音が雨や風の音で聞こえなくなって迷っした。」「ふだん頼りにしている音が雨や風の音で聞こえなくなって迷っした。」「ふだん頼りにしている音が雨や風の音で聞こえなくなって迷っにきった方の話による事故は、「思い違い」で起きるそうです。実際に事故にとってはケガだけではなく、命をも落としかねない行為だと思います。れません。私たち健常者がしているなにげないそのことが、視覚障害者

の上にある凸など、たくさんありました。目がいくようになりました。よく見てみると音声信号機や電卓の「五」誘導用ブロックなど、視覚障害者のために身近で工夫されていることに目線や心情を知ることができました。そのことを知った上で視覚障害者の視覚障害者ガイドヘルプの体験で、今まで知らなかった視覚障害者の

用ブロックの上に荷物を置かないことや自転車を停めないことなど身近

はそんな「思い違い」による事故を少しでも防ぐため、

視覚障害者誘導

私

してしまったら元の場所に戻ることも立ち上がることも難しいです。

な所から気を付けていければ良いなと思います。

るよう、考え続けていきたいと思います。困っている視覚障害者に出会うことがあったらすぐに手を差し伸べられてもらいたいと思いました。これからも小さなことに目を向けて、もし今回の体験で私が思ったことや感じたことをもっと多くの人に共感し視覚障害者についての正しい知識を得ている人は多くないと思います。



勇気

は目に障がいのある人なんだと思いました。それを見た私はこの人思い、もう少し、様子を伺ってみました。女の人は、つえを持っていて、らいの女の人が出てきました。私は、その女の人の様子が少し変だなとらいの女の人が出てきました。私は、その女の人の様子が少し変だなといました。私が少しの間お父さんと話しているときに、横から三十代ぐいました。その駅には人がたくさん居て、あまり静かな駅ではありませい学五年生のころ、私は駅でお父さんとベンチに座って電車を待って

た。 そして、私はその女の人がつえで点字ブロックを探しているのではな た。 た。 なの人の多さに助けに行く勇気が出ませんでした。そし たが、周りの人の多さに助けに行く勇気が出ませんでした。そし たが、周りの人の多さに助けに行く勇気が出ませんでした。そし たいという気持ちをも いかと気付きました。女の人は、電車が来るときまで点字ブロックを探 いかと気付きました。女の人がつえで点字ブロックを探しているのではな

を出して良かったなと感じました。た。おじいさんに「ありがとう。」と笑顔で言われたとき、やっぱり勇気夫ですか。」と声をかけて、エスカレーターの降りるお手伝いをしましで見かけたあの女の人のことを思い出して、今度は勇気をもって「大丈レーターの近くで動くことが難しそうなおじいさんを見かけました。駅との約一週間後にショッピングモールに家族で行ったときに、エスカ

とが最も大切だということを実感することができました。おじいさんのおかげで、人の目を気にせずに、困っている人を助けるこに残っています。そのくやしさを思い出し、勇気をもってお手伝いしたったのですが、駅の女の人に声をかけてあげられなかったくやしさが心私は、今まで勇気が出せなかったり、弱気になったりすることが多か

かけることができたように、声をかけたいと思います。も、困っている人がいたらエスカレーターの所に居たおじいさんに声をど困っている人を助けることはとても素敵だなと感じました。これからしくなるのではなく、助けた方の気持ちもうれしくなるので、障がいなこのように、困っている人を助けるのは、助けられた相手だけがうれ



中学生の部

高齢者に優しい街とは、



これは、高齢者疑似体験を通して私が感じたことです。「見えにくい!聞こえにくい!動きにくい!」

変なのか少しでも理解できるかなと思ったからです。者疑似体験を通じて祖父母や曾祖母の普段の生活の中で、どんな事が大と、私には祖父母だけでなく、九十三歳になる曾祖母もいるので、高齢疑似体験というものに参加しました。なぜ、この体験を選んだかという私達は学校で、福祉実践教室を行いました。私は、その中で、高齢者

小銭を出したりしました。をつけて、段差を上ったり、新聞を読んだり、財布から言われた金額のためのヘッドホン、体や手先の動きにくさを体験するための重りや軍手体験では、高齢者の視覚を体験するためのゴーグル、聴覚を体験する

のです。 その時の感想が、「見えにくい!聞こえにくい!動きにくい!」だった

がしました。そして、これからは、祖父母や曾祖母だけでなく、周りでた。曾祖母は、いつも動作がのんびりでしたが、その理由が分かった気り出しにくく、これだけのことをしただけで、どっと疲れてしまいまし上りにくいし、小銭に関しては、何円玉なのかもよく分からない上に取新聞は大きい字しか読めず、声は近くの人の声しか聞こえず、段差は

た。 困っている高齢者の方がいたら、進んで手を差し伸べようとも思いまし

てしまいました。
は、一人で買い物も行けず、家の中でも杖をついて生活するようになっすで動き回っていたので、とてもショックだったと思います。それからこれといった原因は分からなかったそうです。その前日まで元気に自転が入らなくなっていたのです。病院に行っても年齢的なものだと言われ、どころが数ヶ月前のある日、曾祖母は、朝起きたら左のひざに全く力ところが数ヶ月前のある日、曾祖母は、朝起きたら左のひざに全く力

段は一人で買い物に行けないので、一緒に近所のスーパーに買い物に行 私が感じている以上に、曾祖母は申し訳ない気持ちでいるんだなあと思 曾祖母はことあるごとに、「悪いねえ。」「悪いねえ。」と言っていました。 ず、長い時間車に待ってもらい、何だか申し訳ない気持ちになりました。 がいても、曾祖母はカートに慣れていないので速度を上げることができ 通に歩けば五分くらいで着く距離ですが、カートの速度はゆっくりなの きました。お店までは、 です。今は、 た場所を離れるのは嫌らしく、このまま一人で生活する事を選んだそう て一宮市で一緒に暮らそうと提案しましたが、やはり何十年と住み慣れ て少しかわいそうになりました。 体が不自由になってしまったため、祖母が曾祖母に、小牧市の家を出 倍くらいの時間がかかりました。また、 私は先日、母と祖母と一緒に曾祖母の様子を見に行きました。普 週に一度、デイサービスに通い、入浴やリハビリをしてい 高齢者用の電動カートに乗って行きました。普 横断歩道で曲がってくる車

ら駐車していました。「ここならこの自転車は出れるよね。」と確認しながを遣っていました。「ここならこの自転車は出れるよね。」と確認しなが転車の邪魔にならないようにどこにとめるかだけでも曾祖母はとても気も店に着くと、まず、カートを自転車置き場にとめましたが、他の自

大学ない場合であると、私はお店の買い物カートを曾祖母の所まで持っており買い物をしました。気軽に買い物に行けないため、なるべく日持ちする商品を選んで買い物をしていました。私は、この経験を通して、高齢者の方の気持ちが少し分かった気がしました。高齢者の方は、人になるべく迷惑をかけないように、気を遣いながら生活していると思います。そんな気持ちを私達若者が感じ取って、ながら生活していると思います。そんな気持ちを私達若者が感じ取って、かしくらい歩くのが遅くてもあたたかい目で見守ってあげる、困っていながら生活していると思います。そんな気持ちを私達若者が感じ取って、ながら生活していると思います。そんな気持ちを私達若者が感じ取って、ながら生活していると思いました。私が普段買い物をする時には、気を遣い物をしたの少しの優しい気持ちを一人一人が持ち、高齢者の方がもっと暮らる方を見つけたらためらわずに声をかけてみることが大切だと思います。 しやすい街にしていきたいと思いました。



^できること



支援施設に行くことになっていたからだ。 私は朝から張り切っていた。今日は、夏休み福祉体験学習で障がい者

私には弟がいることもあって、小さい時からお世話をすることが好きないった。人の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十だった。人の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十だった。人の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十だった。人の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十がった。人の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十がった。人の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十れば、世話をしている優しい子。偉い子。と自分のことを信じて疑わなるに、先生にもほめてもらえる。こんな嬉しいことはない。そして、その子は好都合だった。いつもそばにいて、おは、その子の、できないこと、を見つけては、自分が代わって一から十れば、出げるには弟がいることもあって、小さい時からお世話をすることが好きなった。

き、次から次へと作業を繰り返し行っていたのだ。私も利用者さんに負利用者さんたまは一プレートが終わったとすぐに気付いた。既に、が終わった私はいつものように周りの人の〝できないこと〟を探していルを貼ることだった。単純な作業で私には簡単で楽だった。一プレート作業は家具の滑りを良くする商品の組み立てや、替えインクの包装にシー私は十人くらいの利用者さんと一緒に作業し、一日を施設で過ごした。私が行った障がい者支援施設は、知的障がいの方が多く利用していた。

けた気がした。業をこなす利用者さんたちの姿が目に入った。何で私よりできるの?負業をこなす利用者さんたちの姿が目に入った。何で私よりできるの?負私は飽きてしまった。また、周りを見回してみると、黙々と集中して作けじと再び作業を始めた。しかし、一時間近く同じ作業をやっていると

れているようだった。
してほめてもらおうという気持ちでいっぱいだった。私の心は見透かさする。、できないこと、を探して、お世話をしてあげよう、お世話をうまで人の、できないこと、ばかりに目を向けてきた。さっきも、利用らね。、できること、をより多く見つけてね。」私はドキッとした。私はられ。、できること、をより多く見つけてね。」私はドキッとした。私はられで、できること、をより多く見つけてね。」私はドキッとした。私はのまで人の、できないこと、が多く見さんは最後にこう言った。「障がいのある人は、できないこと、が多くして、職方は、「人の職員さんが私に話し掛けてくだされているようだった。

意気込んでいた自分が本当に恥ずかしくなった。
を深してみた。そうしたら、今まで見えなかった利用者さんの姿が見えてきた。そして、人には、できないこと、が適りことにも気付くことができた。ある利用者さんは私が頑張っても五分以上かかった作業をたった三なんはシールを何枚貼っても位置が決してずれることがないくらいに正確。ある利用者さんは私が頑張っても五分以上かかった作業をたった三はって、できること、が違うことにも気付くことができた。ある利用者だから、できないこと、が違うことにも気付くことができた。そして、人に者だから、できないこと、が違うことにも気付くことができた。そして、人にその後の作業で、利用者さんの、できること、を探してみた。そうしその後の作業で、利用者さんの、できること、を探してみた。そうし

りやすく作業のやり方を教えてくれた。私はとても嬉しくなった。私がにいた利用者さんが私の様子に気付き、優しく声を掛けてくれた。分か方が全く分からなくなってしまった。どうしようかと悩んでいると、隣そして、職員さんから教えてもらっていない作業になると、私はやり

た。いろいろなところで「ありがとう。」の声が聞こえた。い人のお手伝いをし、利用者さんたちと一緒に協力しながら作業を進めと満面の笑みで返してくれた。作業が早く終わると、まだ終わっていな利用者さんに「ありがとうございます。」とお礼を言うと、「はーい!」

よう。と私は強く思った。しいと私は心から願う。まずは〝できること〟を見つけることから始めがある。その〝できること〟を認め合える、生かせる世の中になってほ誰にだって〝できないこと〞はある。でも、それ以上に〝できること〞

に心から感謝している。本当にありがとうございました。できた。私の間違った考えを直して下さった職員さん、利用者さんたちきないこと〟を探す自分から〝できること〟を探す自分に変わることが回、障がい者支援施設に行き、利用者さんと一緒に作業をしたことで〝で私は今まで人の〝できないこと〟ばかりを見つけようとしてきた。今

だ。私の、できること、は人の、できること、を見つけることになったの



今の社会に一番必要なもの

	3	•
8	豊	
28	橋市	
	市立由	
1	中部	
	部 中	
	学校	
沂		
藤	年	3°F
	豊橋市立中部中学校二年	
汐		7
ŦŦ		90

私が思う誰もが暮らしやすい社会とは、たとえ赤の他人だとしてもゆ私が思う誰もが暮らしやすい社会とは、たとえ赤の他人だとしてもゆえるきっかけとなったのは福祉施設の訪問でした。

せず、にこにこして家族のように接していました。そして、相手のことっていました。一方、職員の方は同じことを何回聞かれても疲れた顔もたので、どのように接したら良いのか分からず戸惑ってしまい、慣れるからない行動に付き添ったりしているうちにあっという間に時が過ぎ、のに時間がかかってしまいました。私は認知症の方と接したことがなかっなからない行動に付き添ったりしているうちにあっという間に時が過ぎ、のに時間がかかってしまいました。私は認知症の方と接したことがなかっけがらない行動に付き添ったりしているうちにあっという間に時が過ぎ、からない行動に付き添ったりしているうちにあっという間に時が過ぎ、中学一年生のとき、福祉体験学習で福祉施設を訪問しました。私が訪中学一年生のとき、福祉体験学習で福祉施設を訪問しました。私が訪

こそが本当の思いやりだと実感することができました。これ察した瞬間に高齢者の体を支えて、いすを引いてあげていました。これしれないなど想像していなかったからです。でも職員の方は立つことをた。それは高齢者がいすから立ち上がることがつらいとか、危ないかもがいすから立ち上がろうとしているとき、私は何もしないで見ていましをよく観察して頼まれる前に察して行動していました。例えば、高齢者

えることができるのだと感じました。
支えていました。分からないからといって遠ざけず、理解することで支支えていました。分からないからといって遠ざけず、理解することで支正しく理解し、日頃から見守っている職員の方は家族のように寄り添い、とで不安になって避けようとしてしまいますが、認知症の症状や対応を方がする行動がよく分からなかったり、気持ちが上手く通じ合わないこ認知症の方と接したことがなかった私のような人にとっては認知症の

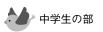
れしく思いました。
しかし、初めて認知症の方と接した私でも全く交流できなかった訳で
はと思っていましたが、逆に認知症の方が助けてくださったこともたく
はと思っていましたが、逆に認知症の方が助けてくださったこともたく
はと思っていましたが、逆に認知症の方が助けてくださったこともたく
はと思っていましたが、逆に認知症の方が助けてくださったこともたく
はと思っていましたが、逆に認知症の方が助けてくださったこともたく
はと思っていましたが、逆に認知症の方が助けてくださったことができ
いましたが、相手も私を気づかってくれていると知ったときはとてもう
いましたが、相手も私を気づかってくれていると知ったときなかった訳で
しかし、初めて認知症の方と接した私でも全く交流できなかった訳で

しやすい社会になっていくのだと思います。だから、今の社会に一番必ど理解しようとする心があればゆずり合い、助け合うことができる暮ら考えていると相手を受け入れられず自分も嫌な気持ちになってしまうけで困難や状況も優しく支えられることを知りました。自分中心に物事を方と接し、その方を支える職員の思いやりに触れ、相手を理解することこの経験から分かったことは、全く関わったことのなかった認知症の

いでしょうか。要なものは、相手を認めて受け入れることができる大きな心なのではな

ると信じて、続けていきたいです。 自然と友達や地域の方々、道で会った人の毎日も明るくすることができば思い出すほど出てきます。毎日心の持ち方を意識する。この心がけがえますがいつもの自分を振り返ってみるとできていないときが思い出せ一人一人を理解しようとする心を持ちたいと思います。簡単なことに思など様々な意見や物の見方がある中で、自分の考えだけにとらわれずにそこで私はまず、身近なことから始めようと考えました。クラスの中





もう一つの言語「手話」

新富市立弥富中学校二年 **建**

どと考えていました。す。私自身も、不便そう、かわいそう、自分に障害があったら嫌だ、な変そう、怖い、普通の人とは違うなど、さまざまな考えがあると思いま、皆さんは「障害」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか。大

その時私は、自分たちにできることは何だろうかと考えました。たりと、健常者には分からない悩みがたくさんあることを知りました。ムが聞こえなかったり、地震等の災害時の際、緊急放送に気付かなかっ教室を通じて聴覚障害者の生活や悩みを知ることができました。アラー私は学校で行った福祉実践教室で、「手話」について学びました。この

を皆で支え合うことが大切だということを知りました。するには、すべての人が「障害」について正しく理解し、障害のある人障害のある人たちが、安心して楽しく暮らすことができる社会を実現

はいないというのも、また事実です。(ですが、障害のある人たちは、特別扱いされることを必ずしも望んで)

「生きづらいな」と考えて、気持ちが沈んでしまいそうです。てしまうかもしれません。そんな状況になった時、私だったら「嫌だな」でいないのに助けられたりすることで、だんだんできることがなくなっいう理由で、自分の力でできることさえもできないと思われたり、望ん障害はあるけれど、皆同じ社会で暮らす人間です。「障害者だから」と

だからといって、障害のある人を健常者と同じと考えるのも違うと思

うちで一緒に生活する機会がありました。
 うちで一緒に生活する機会がありました。
 うちで一緒に生活する機会がありました。

学んだ「手話」を用いて、コミュニケーションをとっています。いました。今は小学校の頃に習った「指文字」と、いとこから少しずつ頃は紙などに書いてコミュニケーションをとる「筆談」を用いて話していとこは耳が聞こえないので、言葉を話すことができません。最初の

す。いとことのコミュニケーションが楽しくなりました。 「指文字」は「手話」とは少し違い、五十音の一音ずつに手の形があ 「指文字」は「手話」とは少し違い、五十音の一音ずつに手の形があ 「指文字」は「手話」とは少し違い、五十音の一音ずつに手の形があ

別なものではなく、もう一つの言語なんだと感じました。外国の人と話す時に、その国の言葉を使うように、「手話」は決して特

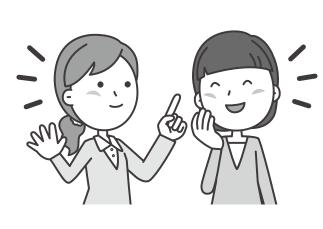
家族に限られているように感じます。話を自由に扱ってコミュニケーションが取れるのは、聴覚障害者やそのできたら、それほど素晴らしいことはありません。ですが、実際は、手すべての人が指文字や手話を覚え、聴覚障害のある人と自由に会話が

手話はできなくても、私たちにもできることはあります。助けが必要

ずにコミュニケーションをとっていくようにしたいです。解、関心を深めていくことも大切です。「障害者」ということにしばられまた、すべての人が福祉に少しでも興味をもち、「障害」についての理な時には積極的に手助けし、見守る時はそっと見守っていくことです。

と思います。なく、他の障害を持っている人、また健常者同士でも変わらないことだなく、他の障害を持っている人、また健常者同士でも変わらないことだ、共に努力し、共に高め合い、共に生きる。それは、聴覚障害者だけで

学ぶことができました。会をつくることができるのではないかと、福祉実践教室や生活の中から、そんなことができる社会になれば、少しでも暮らしやすく、楽しい社



゙ありがとう。」



学びました。 三日間の職場体験学習を通し、福祉の温かさや苦労、働く人の気持ちをそこで、職場体験学習としてデイサービスセンターに行ってきました。顔で優しく声をかけている姿を見て、福祉に関して興味をもちました。私の祖父は老人ホームに入居しています。そこで職員の方がいつも笑

いつも笑顔でいられるんだろう…そう疑問に感じました。もあり体も使います。そんな大変なお仕事なのになぜ職員のみなさんはことを考えなければいけません。それに加え、風呂やトイレなどの介護職員の方は一人一人に合った作業や接し方、食事など本当にたくさんので、どのようなところを困っているかは一人一人違います。そのため、学校のクラスと同じでデイサービスにもいろんな個性をもった人がい

いうことを学びました。
の答えは、体験をしていくうちにみえてきました。「ありがとう。」
たくさん言ってたくさん言われてきた言葉の一つです。でりがとう。」
たくさん言ってたくさん言われてきた言葉の一つです。でらえる。人と人とが関わる仕事はやりがいがあり、温かいものであるとも、なんだか少しいつもとは違う感じがして…不思議な、でもうれしくらえる。人と人とが関わる仕事はやりがいがあり、温かいものであると

介護の勉強として風呂を見学したときに、職員の方がデイサービスで

び、私も人のために行動できるような人になりたいと思いました。したりゲームをしたりするのがとても楽しくて笑顔になれて、逆に元気のことを常に考えながら行動するってのもなかなか気持ち良いことだしあったほうがよいから、学んだことは何もムダにならないんだよ。相手あったほうがよいから、学んだことは何もムダにならないんだよ。相手がもらえちゃうようなそんな仕事。お話をするときは、たくさん知識ががもらえちゃうようなそのがとても楽しくて笑顔になれて、逆に元気にいる職員の方がいるから、利用者さんが笑顔で快適に過ごせているのないと思いました。「介護は肉体労働だと思わば、私も人のために行動できるような人になりたいと思いました。

けたり、 あり、 をして、 を狙い点数を競うチーム戦のゲームで、あまり人と話していなかったお むけることも福祉に大切なことなのではないかと思いました。 と目を見て真剣にお話をすると学ぶことが多く、 お話をするのは難しく、 て聞いたりするのはとても楽しかったです。時には戦争についてのお話 さんとお話をしていく中で、若い頃のお話を聞いて自分と共通点を見つ ど、体の不自由なところが違ってもみんなで楽しめるような工夫もして 良くなれました。足でけってカーリングをとばす、手でおしてとばすな じいさんも一緒に楽しくゲームができ、たくさんの利用者さんとより仲 さすが人のために行動するプロだなと思いました。また、利用者 私達が知らないことを多く知っているお年寄りのお話に耳をかた 職場体験中、 昔の阿久比の様子や地名の変化など自分の住んでいる町につい 怖さを教えてくださった利用者さんもいました。異世代の人と レクリエーションも行いました。 はじめの方は戸惑うことありましたが、きちん 大切なことだと感じま カーリングで的

大変なことを乗りこえているのかなと思いました。のだと思います。職員の方たちも、「ありがとう。」の言葉で辛いことやさんありました。だから、少しくらい仕事が大変でもがんばってこれたたった三日間の職場体験でしたが、感謝の言葉をいただくことがたく

さを感じてもらいたいです。が人のために行動して「ありがとう。」と言われたときのうれしさや温かが人のために行動して「ありがとう。」と言われたときのうれしさや温かたら、もっと社会は明るく温かいものになると思います。そして、自分できました。私の他にも多くの人が福祉について興味をもち考えてくれるは今回の職場体験学習を通して福祉についてより深く考えることが

をよく考えて行動していきます。
私はこれからも「ありがとう。」と言ってもらえるように、相手のこと



幸せな社会にするために



えは大きく覆されました。ですが、この夏のある体験によってその考のだろうと思っていました。ですが、この夏のある体験によってその考く知りませんでした。そして、福祉なんて自分には遠く、関係のないも段の暮らしの幸せを指します。私は今まで、福祉の意味や目的などを全みなさんは、「福祉」について考えたことがありますか。福祉とは、普

の訪問との二日間に分けて行われました。福祉を学んでいくという内容で、施設訪問に向けての事前研修会と実際ました。それは、実際に福祉施設を訪ね、そこにいる人と触れ合う中で、私は、今年の夏休みに開催された福祉に関するボランティアに参加し

くともっとたくさんあるそうです。
事前研修会では、福祉などに関する様々なことを教えてもらいました。
事前研修会では、福祉などに関する様々なことを教えてもらいました。
事前研修会では、福祉などに関する様々なことを教えてもらいました。

かけなどのお話も聞きました。 他にも「ボランティア」そのものの意味や一般に広がっていったきっ

うです。ボランタスとは、自由な意思という意味があり、自分の意思でボランティアという言葉の起源は「ボランタス」というラテン語だそ

行う自発的な行動のことを表します。

ました。

ました。

ないにこんなにも多くの人が動いたと知って、すばらしいなと思いけつけ、被災地の人々にとって大きな支えとなったのです。このようにくの犠牲者が出てしまった阪神・淡路大震災の年です。震災直後より、さんはこの年に何があったかを覚えていますか。大きな被害、そして多らです。この年は「ボランティアが一般に広がっていったのは一九九五年かました。

と実際に訪問する日がやってきました。 そして、この研修会で福祉についてのいろはを学び、いざ福祉施設

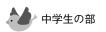
てしまったのです。

さて、クイズを数問行うことにしたのですが、そこで私は一つ失敗をしえて、クイズを数問行うことにしたのですが、そこで私は一つ失敗をしレクリエーションの内容を考えるのにとても苦労しました。一生懸命考ションを行いました。目が不自由な方たちが集まっている施設なので、作業のお手伝いなどをしました。まず、朝に自己紹介と簡単なレクリエー私はとある視覚障がい者支援の施設に配属され、約半日間そこで軽い

あてられたのか分からない状態を作ってしまったのです。く方式でやっていたのですが、相手は目の不自由な方たちなので、誰がクイズは、答えが分かった人には挙手をしてもらい、それをあててい

後悔に苛まれていました。すが、そこまでをきちんと考えて計画を立てられなかったことに対するが、そこまでをきちんと考えて計画を立てられなかったことにできたので結局、施設の職員の方に助けてもらって無事終えることはできたので

です。失敗はしてしまったものの、その方の一言でとても救われたし、きは、ありがとうね。すごく楽しませてもらったよ。」と言ってくれたのろうと、不安や緊張でいっぱいでした。ですが、ある一人の方が「さっれ合いの時間がやってきました。先程の自分の失敗をどう思っているだそして、そんなレクリエーションの後、施設で暮らしている方との触



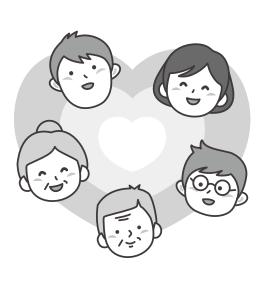
心がすごくあたたかくなりました。

たちと同じように幸せに生活しているように感じました。 そして、今回の活動を通して、障がい者施設で暮らしている人も、私

りに楽しく幸せに生きているということを知りました。た。ですが、そんな考えは間違いで、障がいのある人たちも自分たちな私は今まで、障がいのある人は不憫で、不幸なものだと思っていまし

りつけてしまうのは、間違いだと思います。からこそ、「障がい者」というだけで、不幸だというレッテルを一概に貼た。人の不幸や幸せは、他人が測れるものではないと私は思います。だい。障がいは不幸、と言っている社会が不幸なのだ。」というものでしぎりました。それは、「障がいがあることは、不便ではあるが不幸ではなぞう思った時、事前研修会である方がおっしゃっていた言葉が頭をよ

います。 越えて良い関係を築き上げていけるような社会になることを私は願って合っていけたらいいなと思います。そうして、「障がい」という名の壁を障がいを持つ人を除け者として扱うのではなく、同じ目線で互いを認め 私は、今回の体験を通して得ることのできた新たな考えを胸に、今後



助け合って生きるために

春日井市立鷹来中学校三年

べてみた。 べてみた。 で、みんなが助け合って生活するためにあるマークやサインについて調わからなくて、声をかけにくいこともあるのではないか。そう思ったのだろう。「助けが必要な人」とはどのような状況にある人だろう。それが動できる人でありたいと思う。でも「困っている人」とはどのような人差しのべよう」というような言葉をよく耳にする。私もそんなふうに行「困っている人を見かけたら声をかけよう」「助けが必要な人には手を

に「彼女は健康そう」「席をゆずるべき」と判断してしまったのだ。のたい、ないは、次の駅で降りていった。彼女は電車を降りるとき、少し立っていたが、次の駅で降りていった。彼女は電車を降りるとき、少し立ったいたが、次の駅で降りていった。彼女は電車を降りるとき、少し立ったかなり強く言った。高校生は女性に席をゆずって、そのすぐそばにしばらくすると高齢の女性が乗ってきて、彼女に、自分に席をゆずるよ電車に乗っていたとき、制服を着た女子高校生が優先席に座っていた。

い人の場合は席をゆずれと言われたりすることがあるそうだ。ヘルプマーと立っているのがつらいという。でも気づいてもらえないから、特に若ることをインターネットで知った。例えば、義足の人は電車などでずっが配慮や援助を受けやすくなるように、「ヘルプマーク」というものがあー見た目ではわからない障害や病気を抱えている人がいる。その人たち

などできることをしたい。 などできることをしたい。 後助を必要としている人が少しでも生きやすいようにしたい。だから、援助を必要としている人が少しでも生きやすきにくい。でも電車で見かけた彼女のように、悲しい思いをする人がな行動がとれると思う。人工関節や義肢、内部障害や難病は外見では気づクを知っていれば、それをつけている人に対してもっと思いやりのある

ときは、 かけたら、その犬は盲導犬なのかもしれない。そういうことを「知って 声をかけるようにしたい。それに、白杖を持っていなくても目が不自由 もちろんだが、自分からSOSを発信しているならぜひそれに気づいて 声をかけられるだろうか。目の不自由な人の手助けをするのはためらっ 杖を掲げている人を見かけたとき、困っているのだと気づいて迷わずに えるだろう。 いる」だけで、 したら目が見えにくいのかもしれない。施設内の多目的トイレで犬を見 な人はいる。少し変わった方法で買い物をしている人がいたら、もしか に声をかけるのは大切なことだ。だから、困っていそうな様子のときは てしまう人もいると思う。でも、障害があってもなくても困っている人 Sシグナルを使わない人もいる。でも、 知られてもいない。地面から白杖を離すことに抵抗があって、このSO 目が不自由で白杖を使っている人が、白杖を掲げて立ち止まっている SOSのサインなのだそうだ。まだ見たことはないし、 驚かないで障害のある人だと理解し、 知らないままでいたら、 手伝えることが増

い知識をもつこと。その上で「声をかけよう」「助けよう」という意識ややっているのかな」と思ってしまったら意味がない。だからまずは正し囲の人がそれを知らなければ意味がない。白杖を掲げる人を見て、「何を配慮をしてもらいたいのか、少し知っているだけでも全然違う。せっか配慮をしてもらいたいのか、少し知っているだけでも全然違う。せっかでいるだけでも全然違う。せっかで書が正しい知識をもつことが必要だと思う。何が困るのか、どのようなで書が正しい知識を抱える人が生活しやすい社会にするためには、まず健常

会になるといいなと思う。害や病気の有無にも関わらず、誰もが互いに助け合って生きていける社もつ人かどうか、マークやサインを出している人かどうか、さらには障行動力をもつことが大切だと思う。そして、外見でわかる病気や障害を



高校生の部

福祉について学んだこと



強になりました。 技術や利用者様に対しての接し方についてたくさんの事を学び、良い勉 技術や利用者様に対しての接し方についてたくさんの事を学び、良い勉 経験や大変さ、様々な事について学びました。合計して十九日の実習で が護老人保健施設で十日間の実習をしてきました。どの実習も初めての 強してきました。そして、障害者の作業所で四日間、通所施設で五日間、 私は将来、医療系の仕事に関わりを持ちたいと思い、福祉科に入り勉

では、 でした。 でした。 さらにほとんどの方が話をされない方が多く、どうコニケーションでした。 私は元々人見知りで上手く自分から話しかけられませんでした。 さらにほとんどの方が話をされない方が多く、どうコニケーションでした。 私は元々人見知りで上手く自分から話しかけられませんでした。 さらにほとんどの方が話をされない方が多く、どうコスニケーションでした。 私は元々人見知りで上手く自分から話しかけらい、 焦り、不安な思いをさせてしまうので、 日常的な事から声かけをしていく でした。 を良いと職員の方から教わりました。 と良いと職員の方から教わりました。

「お昼ご飯、美味しかったですね。」「今日は天気が良いですね。」

などの声かけをすることで、安心感を与えられる事を学びました。

障害者の方が持っている個性、支援方法などを学ぶ事ができました。実習先では全く違い直接経験する事で、コミュニケーションの難しさ、障害者の方に対しての偏見がなくなりました。また、授業で習った事と障害者の方と直接関わる事で、才能や技能など、得意不得意が分かり

実習ではもう少し成長した介助が行えるようにしていきたいです。 かけを同時に行う事に混乱してしまい、声かけが疎かになってしまいま た。特に一番苦手なのが、介助を行いながらの声かけでした。 りにいかずに一つの介助を行うだけでかなり時間が掛かってしまいまし 低くし力を入れる事の大切さや、動作を覚えていても、 ありました。見学と実践だと全く違い、ちょっとの力じゃ足りず、 なかなか上手くいかずに困ってしまい、何度か手伝って頂く場面が多く ました。初めて今回、 りました。通所施設では、コミュニケーションについて深く学べました。 だけでなく、様々な利用者様に話しかける事もでき、充実した実習にな だったコミュニケーションも、円滑にできていました。また、一人の方 際に行ってみると、どんどん会話が一つの話題から広がっていき、不安 気、「と」は友達についての話題を話す事で上手く会話が続くと知り、 て頂きました。「た」は食べ物、「ち」は地域、「つ」は通勤、「て」は天 バイスを頂きました。会話の「たちつてと」を使うと話しやすいと教え って頂きながらしかできませんでした。そこで職員の方から適切なアド ても、上手く会話をつなげる事ができずに、最初の頃は職員の方に手伝 なコミュニケーションでした。日常的な事から声かけを始める事ができ ションが中心でした。今回の実習でも苦労したのが、利用者様との円滑 した。介護技術の習得はとても難しく、簡単な事ではないので、今後の 通所施設では、利用者様との関わりがとても多く、主にコミュニケー 介護老人保健施設での実習では、介護技術、多種職連携について学べ 排泄や入浴、移乗や食事の介助をやらせて頂いて、 なかなか手順通

いです。 いです。 は、良い経験にもなりました。直接、障害者の方や高齢者の方の苦手な部分を中心に頑張りつつ、信頼関係を築けるようにしていきたの苦手な部分を中心に頑張りつつ、信頼関係を築けるようにしていきたいです。また、と関わる事で特徴や個性、接し方などを理解でき、疾病や障害について、と関かる事で特徴や個性、接し方などを理解でき、疾病や障害について、く勉強でき、良い経験にもなりました。直接、障害者の方や高齢者の方く勉強でき、良い経験にもなりました。直接、障害者の方や高齢者の方



偏見がつくる世界

愛知県立豊丘高等学校三年

思うこともありました。思っていましたが、いつもどこか他人事で、あまり関わりたくないなと思っていましたが、いつもどこか他人事で、あまり関わりたくないなどて目で追っていました。たぶんこの気持ちはあまり良くないのだろうと私は「どうしたのかな」「かわいそうだな」と思い、興味を引く存在とし日頃、街で障害を抱えた人を見かけた時どんな気持ちになりますか。

しかし今は違います。障害を抱えた人を見かければ、「何か困っていなしかし」「私にできることはないだろうか」と考えるようになりました。これか」「私にできることはないだろうか」と考えるようになりました。ことができる実習です。私は特別支援学校の高等部一年のクラスで実習を行っています。年齢だけでいえば、私と二つしか年が変わりません。す、生活していくのに不自由があり、できることが当たり前にこなせですが、私たちが普段当たり前だと思っていたことが当たり前にこなせですが、私たちが普段当たり前だと思っていたことが当たり前にこなせず、生活していくのに不自由があり、できることの違いがたくさんありました。初めて特別支援学校を訪れた日、教室に入った瞬間に頭が真っ白になりました。今まで、保育園や高齢者施設での実習、乳児院でのボランティア活動などを行ってきましたが、障害を抱えた人とは関わったことがありませんでした。関わったことのない未知の世界であることへの不安と私には計り知れない生徒さんたちの苦労を考えると、私にできることなどないのではないかという考えになってしまい、一歩が踏み出ることなどなができることはないだろうか」と考えるようになりません。

教室の雰囲気もとても明るく見え、生徒さん達と関われて嬉しい、 この目標ができてからの実習は、今までとは全く違うものになりました。 は少ないかもしれないけれど、生徒さんたちの様子を観察し、先生方と それを知った時、 たのに、生徒さんには変化があったからです。さらに、私のことを見て 見で、これらの偏見が障害を抱えた人の生活に大きな影響を与えてしま 変わっていきました。今までの考えは知らなかったからこそ生まれた偏 ことにも気付きました。多くの子どもたちと一緒で、 ら行えることも多く、 いという気持ちが大きくなりました。また、生徒さん達の様子を見てい の関わりも見ながら、気持ちを読み取れるようにしようと思いました。 らどう声掛けしていこうか考える希望も出てきました。私にできること のに私は目を向けていなかった。後悔の気持ちが大きくなりました。し 気持ちになりました。生徒さんの様子をよく見ていれば分かったはずな 今まで見てくれていなかったのは恥ずかしがっていただけだそうです。 この変化の理由は生徒さんと先生が会話している内容からわかりました。 くれない生徒さんだったので嫌われてしまったのだと思っていました。 全く成長できず、ただ時間が過ぎるばかりで、何の変化も起こせなかっ さんが顔をあわせてくれるようになりました。私は不思議でした。私は が多くありました。そんな中、いつもは顔をあわせてくれなかった生徒 いきましたが、 せなくなってしまいました。日にちを重ねていくごとに環境には慣れて も多くの希望に満ちていて、様々な可能性を秘めていると感じました。 ているのではないかと思いました。 これらの経緯をもって、私にとっての障害を抱えた人の印象は大きく それと同時に嫌われていなかったということへの安心感、これか 簡単に行うことはできなくても生徒さんのペースでゆっくりとな 私は何もできずただ立っているだけになってしまうこと なぜ今まで気付くことができなかったのかと情けない 不自由で活動するのが苦しいことばかりではない 障害を抱えていて

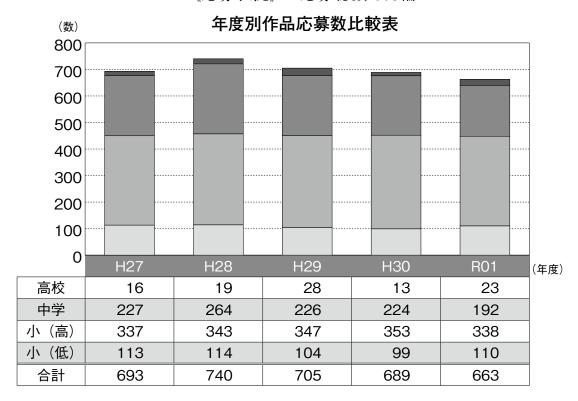
最近、「心のバリアフリー」という言葉をよく聞きます。この言葉を簡

るようになりたいです。心のバリアフリー化が進んでいくことを切に願 いて、これからの実習などを通し、 えます。これからの生活の中で出会う障害を抱えた人との関わり方につ 自分から率先して知ろうとすることが偏見をなくす第一歩に繋がると考 かりだと思います。 身も体験しましたが、そこから起こる事柄は正しいとは言えないことば とはとても悲しいことです。知らないということはとても危険で、 害を抱えているから何もできない。こんな考えを持っている人がいるこ 不自由があるから私たちとは違う。障害を抱えていてかわいそうだ。障 心のバリアフリー化はあまり進んでいないままです。障害を抱えた人は ているように感じます。しかし、施設のバリアフリー化は進んでいても、 ンピックが開催されることもあり障害を抱えた人への関心は高まってき 単に言えば、偏見をなくすことだと私は思います。来年には東京パラリ 進めていく手助けができるよう日々努力し続けたいです。 知らないことは知らないままにしておくのではなく 知識を増やしていき、



■ 福祉体験作文コンクール ■

《応募状況》 応募総数 663編



八江三地杉

好 福 浦 尾

和

真紀子

愛知県教育委員会生涯学習課主査

愛知県教育委員会義務教育課指導主事

和

明

尾

愛知県社会福祉協議会地域福祉部長

弥富市社会福祉協議会事務局長

愛知県身体障害者福祉団体連合会常務理事兼事務局長

AJU自立の家 わだちコンピューターハウス

木口

康 宏

彦

美

福祉体験作文コンクール選考委員

(敬称略)

に基づき厳正なる審査をし、部門毎に優秀作品を決定しました。

福祉体験作文コンクール選考委員会を次の方々に依頼し、募集要項

日出志 愛知教育大学名誉教授

舩



ください。

令和元年度 福祉体験作文コンクール募集要項

旨

のです。 げるための豊かな経験となるものであり、ともに生きる福祉の心を育ててくれるも 児童・生徒が、学校内外で体験する福祉活動やボランティア活動は自己の幅を広

募集します。 たものが心に残り、日常生活の中で広がっていくことを期待して、福祉体験作文を こうした経験を通して感じたことや考えたことを、素直な気持ちで作文に表わし

二、主

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会

応募対象

趣旨に賛同する愛知県内(名古屋市を除く)の小・中・高等学校及び特別支援学

校の児童・生徒 応募作品の内容

での体験について、自分の考えや感じたことを表現したものとします。 学校での福祉実践教室やボランティア活動等の体験、地域や家庭、身近なところ

門

- $\overline{}$ 小学校低学年の部(一~三年生)
- 小学校高学年の部(四~六年生)
- 中学校の部
- 高等学校の部

六、作品規定

- とします。 四〇〇字詰め原稿用紙(タテ書)を使用し、各部門の枚数制限は次のとおり
- ア 小学校低学年(一~三年生)——一~三枚以内(四〇〇字以上一二〇〇字以内)

小学校高学年

(四~六年生)——二~四枚以内

(八〇〇字以上一六〇〇字以内)

※題名は一行目、学校学年氏名は二行目、本文は三行目から一マス空けて書いて 中学校・高等学校 -四~五枚以内(一六〇〇字以上二〇〇〇字以内)

- ではありません。その旨を明記してください。 応募作品は、原則として自筆に限ります。 ただし、障害等の場合はその限り
- 応募作品には、所定の応募票を添付してください

応募規定

(一) 小学校及び中学校の応募数は各部門二編以内、高等学校は三編以内とします。

(参考)

小学校低学年 一校につき 二編以内 (一~三年生

小学校高学年 一校につき 二編以内 (四~六年生

中学校 校につき 二編以内

高等学校 校につき 三編以内

- (二) 応募作品は、未発表のものに限ります。

八、応募方法

(三) 応募作品は、理由のいかんにかかわらず返却しません。

下記の応募票を添付し、学校のある市町村の社会福祉協議会に令和元年九月二十

九 選考

H

(金) までに応募してください。

選考委員会を設けて、部門ごとに入選作品を合計二十五編程度選考し、令和二年

+ 表彰等

二月(予定)に発表します。

入選者には賞状、副賞及び優秀作品集を贈呈します。

十一、作品集の作成等

人選作品を掲載した優秀作品集を作成するとともに、入選作品は愛知県社会福祉

